報道関係各位

2026年11月12日

国土交通省「PLATEAU AWARD 2026」審査委員決定
齋藤精一氏・川田十夢氏らが応募者へのコメントを発表

3D都市モデルを活用した作品・提案を11月19日（木）まで募集
一般部門と新設の自治体共創部門で本エントリー受付中

株式会社角川アスキー総合研究所（本社：東京都文京区、代表取締役社長：垣貫真和）は、運営事務局を務める国土交通省「Project PLATEAU（プロジェクトプラトー）」主催の開発コンテスト「PLATEAU AWARD 2026」について、審査委員が決定したことをお知らせします。併せて、応募者への期待を込めた各審査委員のメッセージを公開します。

メッセージには、3D都市モデルの可能性を引き出す自由な発想や、新たな体験、地域課題の解決につながる提案への期待が込められています。一般部門・自治体共創部門ともに、本エントリーは2026年11月19日（木）まで受付中。プレエントリーに登録していない方も応募できます。



■作品の発信とネットワークづくりを通じて社会実装へ

本アワードは、PLATEAUがオープンデータとして提供する3D都市モデルを活用したアプリケーションやコンテンツ、地域課題の解決につながる提案を募集するコンテストです。受賞した作品・アイデアは、各種メディアやPLATEAUの活用事例を通じて紹介されます。

応募者には、PLATEAUコミュニティへの参加機会も用意。作品の発信やネットワークづくりを通じて、開発技術の社会実装を後押しします。

最終審査会・表彰式は、2027年2月27日（土）に開催予定です。

■審査委員から応募者へのメッセージ

審査には、以下の５人と国土交通省都市局国際・デジタル政策課（Project PLATEAUチーム）が参加します。５人が応募者に寄せたメッセージは、次のとおりです。

審査委員長 齋藤精一氏（パノラマティクス主宰／株式会社アブストラクトエンジン代表取締役）

都市のデータに向き合うことは、まちの新たな可能性をひらくことでもあります。PLATEAUを使うことで、見慣れた風景の中に、これまで気づかなかった課題や魅力を見つけることができる。その可能性は、防災や安全・安心なまちづくりから、メタバースでの表現やエンターテインメントを通じてまちを楽しむことまで広がっています。

今年度新たに加わる「自治体共創部門」では、地域の人々や自治体とともに考え、アイデアを実際の暮らしやまちの変化につなげていく取り組みに期待しています。何よりも自由な発想と、それを形にする熱量を持った皆さんと、最終審査会でお会いできることを楽しみにしています。

川田十夢氏（開発者／AR三兄弟／元審査委員長）
PLATEAUを使っているから優れているというよりは、ど凄い印象のものが実はPLATEAUで作られている。みたいな触れ込みが好きです。たくさんのご応募お待ちしております。

千代田まどか（ちょまど）氏（Microsoft, Developer Advocate）
物理世界とバーチャル世界をつなぐ 3D 都市モデル。そのデータに独自の視点を与え、新しい価値を生み出す、皆さまクリエイターの方々は素晴らしいです！デジタルツインの可能性を広げる発想と、体験を形にする技術の工夫に注目します。皆さまの挑戦をお待ちしています！

小林巌生氏（Code for YOKOHAMA 共同代表）
PLATEAUが提供する都市のデジタル基盤は、都市デザインの方法論そのものをアップデートする可能性を秘めています。都市空間とバーチャル空間を接続することで生まれる新たな価値や、これからの都市と情報空間の関係を問い直すような、創造的で挑戦的な提案に出会えることを楽しみにしています。

野見山真人氏（Takram デザインエンジニア）
生成AIの進化で、3D都市モデルを扱うハードルは大きく下がりつつあります。だからこそ問われるのは、何をつくり、誰のどんな体験を変えるのか。便利なだけでなく、思わず心が動くような作品に出会えることを楽しみにしています。


齋藤 精一氏


川田 十夢氏


千代田 まどか氏


小林 巌生氏


野見山 真人氏

■本エントリーは11月19日（木）まで受付中

一般部門
3D都市モデルを活用したアプリケーションやWebサービス、コンテンツ、地域課題解決・都市計画のソリューションなどを募集します。個人のほか、企業、教育機関・研究機関、行政機関などのチームが応募でき、メンバー数や年齢の制限はありません。

提出物は、作品概要、プレゼンテーション用PDF、作品の動作などが分かる3分以内の動画。審査では「3D都市モデルの活用」「アイデア」「UI・UX・デザイン」「技術力」「実用性」の5項目を総合的に評価します。

一般部門 応募フォーム：https://form.run/@plateauaward2026-apply

自治体共創部門
地方公共団体の職員と、民間企業・開発者などの伴走パートナーによる共同チームを対象に、地域課題の解決や行政業務の効率化につながる提案を募集します。プロトタイプは不要で、現状分析や課題定義の段階から応募できます。応募時点で、伴走パートナーが決定していることが条件です。

提出物は、解決すべき課題や企画概要、チームの体制などをまとめた所定の「課題定義書」。採択された提案には、コンテスト終了後、社会実装に向けた伴走支援などを予定しています。

自治体共創部門 応募フォーム：https://form.run/@plateauaward2026-apply-gov

応募条件や審査方法などの詳細は、公式サイトの各部門の募集要項をご確認ください。

『PLATEAU AWARD 2026』公式サイト
https://www.mlit.go.jp/plateau-next/award/

■角川アスキー総合研究所の役割

当社は、運営する『ASCII STARTUP』を通じ、2020年度のProject PLATEAU開始当初から、3D都市モデルの活用促進に向けた情報発信やコミュニティ形成支援に携わっています。「PLATEAU AWARD 2026」においても、これまで培った知見やネットワークを生かし、運営事務局として本アワードの実施を支援します。

『PLATEAU AWARD 2026』事務局 ： plateau-award@lab-kadokawa.com
WEBメディア『ASCII STARTUP』：https://ascii.jp/startup/

■『PLATEAU AWARD』について

国土交通省が推進する「Project PLATEAU」の一環として、まだ見ぬアプリケーション、サービス、コンテンツ、あるべき未来の都市や暮らしにつながる取り組み、それらを支える先進的なソフトウェア、映像表現など、3D都市モデルの可能性を引き出すことを目指した開発コンテストです。

「一般部門」では、3D都市モデルを活用したアプリケーションやWebサービス、ビジネス、アイデアなどを幅広く募集します。

また、今回新設した「自治体共創部門」では、地方公共団体と民間企業・開発者などがチームを組み、地域課題の解決や行政業務の効率化に向けた提案を募集します。自治体共創部門は、プロダクトの完成を前提とせず、現状分析や課題定義など開発前の段階から応募できます。

■『Project PLATEAU』について

『Project PLATEAU』は、国土交通省がさまざまなプレイヤーと連携して推進する、日本全国の都市デジタルツイン実現プロジェクトです。都市活動のプラットフォームデータとして3D都市モデルを整備し、さまざまな領域でユースケースを開発しています。さらに、誰もが自由に都市のデータを引き出せるよう、3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化を通じて、まちづくりのDXとオープンイノベーションの創出を推進しています。

公式サイト：https://www.mlit.go.jp/plateau/

■株式会社角川アスキー総合研究所について

角川アスキー総合研究所は、メディア運営やコンテンツ制作で培った知見を生かし、調査、コンサルティング、マーケティング、ビジネスソリューション、出版、教育支援など幅広く事業を展開しています。コンテンツ力、メディア力、リサーチ力を総合的に活用し、企業・自治体・官公庁などのお客様が抱える課題解決に取り組んでいます。

事業内容：
メディア運営、調査・コンサルティング、各種マーケティング、ソリューション事業、出版、教育支援事業ほか

公式サイト：https://www.lab-kadokawa.com/

【本件に関する報道関係者からのお問い合わせ先】
株式会社角川アスキー総合研究所　広報担当 堀
press-cp@lab-kadokawa.com